教育課程全体を通して取り組む道徳教育の実践

～北海道高等学校「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」～

北海道厚別高等学校　学級数 21　（校長　井上　明子）

１　本校の現状

本校は、昭和 58 年度に全日制普通科として開校し、今年度で創立 38 年目を迎える。開校当初より芸術系を含む類型による教育課程を編成してきたことから、平成 25 年度より、「人文系列」「数理系列」「美術系列」「音楽系列」の４系列を設置し、進学と芸術を重視した都市型の総合学科へと学科転換し、今年度で７年目を迎える。特に、北海道で唯一の芸術教科・科目を主とする音楽系列と美術系列では、１年次の選択科目「音楽Ⅰ」、「美術Ⅰ」から、専門性の高い教員によるバイオリンの指導やコンピュータを使った GIF アニメーションの作成など芸術文化に親しむ学校としての特色を生かしながら、教育活動を行っている。

また、本校では、科目「産業社会と人間」において自己の在り方、社会とのつながり方を学ぶとともに、教科・科目で身に付けた知識・技能を、インターンシップや地域活動、科目「課題研究」において活用しながら、思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、地域・社会との望ましいつながりを「創り出す力」を育成することを重視している。

そこで、新学習指導要領を踏まえカリキュラム・マネジメントの推進が求められる中、これまでの各教科等において実践してきた取組を踏まえ、学校教育目標と育成したい資質・能力のうち、道徳教育で育てる資質・能力を重点化し、教育課程を通じてその実現を図るための取組を行った。

２　新学習指導要領実施に向けて

(1) 学校教育目標の見直し

平成 30 年度まで本校で掲げていた学校教育目標は、開校当時に作られたものであり、これまで一度も修正することなく学校経営を進めてきた。この学校教育目標は、21 世紀を担うべき若者のあるべき姿を、心身ともに健康であり、目的意識をもって学び、行動力があり、しかも自立心と判断力を備えた人間ととらえ定められたものである。

しかし、現在は、本校が開校した当時の社会から急速に少子高齢化・情報化・グローバル化・技術革新などが進展する中、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に身に付けさせることのできる学校教育目標について改めて見直す必要があると考え、プロジェクト委員会を立ち上げ学校教育目標の見直しを図った。

(2) 生徒に身に付けさせたい資質・能力の明確化

次のとおり、新しく学校教育目標を設定した後、生徒に身に付けさせたい資質・能力の 12 項目について確認した。また、教育活動を実践していく中で、資質・能力を育成する場面を整理し、行事などの終了後に生徒による自己評価を基に課題を明確化した。

○改訂前の学校教育目標（平成 30 年度まで）

未来にたくましく生きる人間をめざして 　　健康で　心豊かな人間 　　意欲的に学び　自ら実践する人間 　　生活を自ら律し　けじめのある人間　を育成する。

○改訂後の学校教育目標及び生徒に身に付けさせたい資質・能力（令和元年度から）

学校教育目標	身に付けさせたい資質・能力
意欲的に学び、主体的に判断し、自律的な行動ができる人間の育成	主体性、継続力、判断力、表現力（行動力）
社会の変化に対応し、豊かに逞しく生きることができる人間の育成	豊かな心（多様性受容力）、体力、課題解決力、社会性
探究心を持ち、協働して新たな価値を創造しようとする人間の育成	思考力、人間関係形成能力、創造力、想像力

(3) 校内研修の実施による学習指導要領における各教科の内容等についての共通理解

令和４年度から始まる新学習指導要領に向けて、校内研修を開催し、各教科の特性や変更点について共通理解を図るとともに、それぞれの系列（人文系列、数理系列、美術系列、音楽系列）の目標と育成を目指す生徒像について見直し、道徳教育で育てる資質・能力の重点化を図りながら、教育課程の編成と実施を行った。

(4) 本校の学校教育目標と道徳教育の内容項目の整理

学校教育目標を見直すとともに、新たに設定した育成を目指す 12 項目の資質・能力と道徳教育における内容項目との関係を、右の図１のとおり整理するとともに、道徳教育に取り組むことにより、本校が育成を目指す資質・能力の育成につながることについて共通理解を図った。

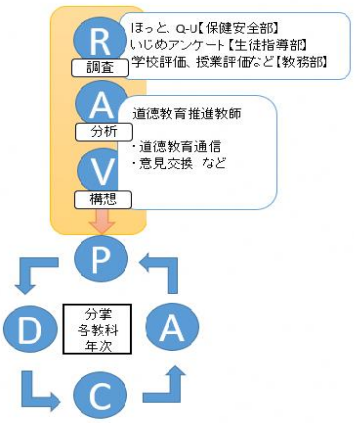
図１　学校教育目標と生徒に身に付けさせたい資質・能力と道徳教育における内容項目との関係

内容・項目			学校教育目標の位置						
			主体性	継続力	判断力	表現力（行動力）	豊かな心（多様性受容力）	体力	課題解決力
A 主として自分自身に関すること		自主、自律、自由と責任	○		○	○			
		節度、節制		○	○				
		向上心、個性の伸長	○			○			○
		希望と勇気、克己と強い意志	○	○	○	○			
		真理の探究、創造	○				○		
B 主として他の人との関わりに関すること		思いやり、感謝			○	○	○		
		礼儀			○	○			

(5) 道徳教育推進教師の役割

道徳教育推進教師の役割として、本校では、右図２のとおり、各種調査などの分析結果から、本校での道徳教育に関するビジョンをたて、各年次・各教科へ伝えるという、「RAV から PDCA の流れ」を作った。

図２　RAV から PDCA への流れ



3　道徳教育の実践

(1) 道徳教育の全体計画

学校教育目標を見直す際に、道徳教育の全体計画の見直しを行った。その際、子ども理解支援ツール「ほっと」（以下「ほっと」と表記）の 13 項目と道徳教育の内容項目の関係性を整理し、「ほっと」の結果をもとに、本校において、道徳教育において重点的に育成する資質・能力を明確化した。

○「ほっと」の 13 項目と道徳教育の内容項目の関係性

ほっと	要素	礼儀	表明	参加	配慮	拒否	緊張	称賛	遵守	忠告	自律	率先	学業	相談
	結果	3.7	3.1	3.3	3.4	3.2	2.5	3.3	3.4	2.8	3.1	2.6	3.2	3.3
道徳教育における内容項目		礼儀	希望と勇気、克己と強い意志	社会参画、公共の精神	思いやり、感謝	希望と勇気、克己と強い意志	相互理解、寛容	思いやり、感謝	遵法精神、公徳心	公正、公平、社会正義	自主、自律、自由と責任	よりよい学校生活、集団生活の充実	真理の探究、創造	相互理解、寛容

(2) 各教科との連携

高等学校には道徳の時間がないことから、教育活動全体の中で道徳教育を実践していく必要がある。その教育活動の中心は各教科の授業であるが、授業に無理やり道徳教育の内容を取り入れようとすると、授業のねらいを壊しかねない事から、「道徳教育通信」を発行し、各教科で次の手順を踏んで道徳教育に

取り組むよう周知した。

○「道徳教育通信」の一部

①　ステップ１「実践の中から道徳的内容を見つける」 　第１回目の授業公開週間（６月）の際にとったアンケートから、「授業の反省と改善について」という内容では殆どの先生方が「毎授業後、指導法や評価方法など反省し、次回の授業で改善している」という結果になっていました。そこで、授業実践後、その実践した授業の中で道徳の内容項目と置き換えられる資質・能力があったかどうか確認してみてください。 ②　ステップ２「道徳の内容を織り込む」 　ステップ１が継続的に実践されると、どの場面でどのような道徳の内容項目が教育的に有効なのか少しずつ見えてくると思います。ステップ２として、今度は授業を組み立てる中で意識的に道徳の内容項目を要所に織り込み実践してみてください。

(3) 公開授業週間における授業実践交流

第１回目の「ほっと」の分析結果を踏まえ、重点的に育成する資質・能力の伸張を意識した４つの教科等の公開授業を実施し、授業の在り方について共通理解を図った。

教科等	科目等	単元等
保健体育	保健	生涯を通じる健康「家族計画と人工中絶中絶」
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	Biodiesel Adventure
数学	数学研究Ⅱ	場合の数　点字
特別活動	ＬＨＲ	体育館にて年次全生徒による卒業記念品を考える取組

(4) 意識調査

昨年11月の授業公開週間終了後、教員を対象とした自己評価アンケートを実施した。「授業の中に道徳教育に関わる内容項目はありましたか？」という質問に対し、約８割の教員が「あった」と回答し、それぞれの教員が道徳教育の内容項目を授業中に意識するようになった。

具体的に、意識している内容項目は、次のとおりである。(※複数回答可)

「自主、自立、自由と責任」(34.1%)　「相互理解、寛容」(34.1%)　「思いやり、感謝」(24.4%) 「節度、節制」(22.0%)　「向上心、個性の伸長」(22.0%)

4　特別講演会

令和２年２月21日（金）、徳武産業株式会社代表取締役会長十河孝男氏を招き特別講演会を開催した。働くことの意義や意味について考えさせるため、講演会の事前及び事後に、生徒に「何のために働くか？」について、ポートフォリオに記入するよう指導した。

講演会前においては、「自分のため」という記載や未入力者が多かったが、講演会後においては、ほとんどの生徒が「誰かのため」という記載に変わっていた。このことから、生徒は講演会を通して、働くことの意義について考えを深めることができた。

生徒が記載した事前、事後のポートフォリオの内容は、次の表のとおりである。

○「何のために働くか？」についての生徒のポートフォリオ記載内容

時期	生徒のポートフォリオ記載内容
事前	・たくさん遊んだり旅行をしたりするためや、１人で生活していけるようになるため。また、コミュニケーション能力を高めるため。
	・生きるため、自分の成長のため、貯金するため。
事後	・講演会の話を聞いて、私も将来お金のためだけではなく人のために頑張って働けるようになりたいと思った。小論文テストでも「お金のため以外で何のために働いているか」という課題を選んだので、今日の話も参考にして良い小論文にしたい。
	・これからはもっと周りを見て周りの人が何を必要としているのか考えて行動しようと思った。最後に十河さんが言っていた「夢はみるものではなく、実現するものだ」という言葉にすごく共感させられた。今日はとても良い話を聞くことができて嬉しかった。
	・話を聞く前までは「自分の生活のために」としか考えていませんでしたが、話を聞いて、人のために働くことはすごい事だと思いました。
	・顔も知らない人のために仕事をしている人はとても憧れます。私も将来は、誰かのためになることをできたらいいと思いました。

５　取組の成果

７月に実施した第１回目の「ほっと」の分析結果を周知し、その後、道徳教育を意識した授業を実践後、12 月に第２回目の「ほっと」を実施した。その結果は、次の表のとおりである。13 項目のうち、「表明」、「率先」、「学業」、「相談」の４項目における生徒の平均得点が上昇した。これは、授業において、道徳教育における内容項目を意識しながら指導したことに加え、授業以外における特別活動が学校生活の中において意識して指導する場面が増えたことと考えられる。

	要素	礼儀	表明	参加	配慮	拒否	緊張	称賛	遵守	忠告	自律	率先	学業	相談
ほっと	第１回	3.7	3.1	3.3	3.4	3.2	2.5	3.3	3.4	2.8	3.1	2.6	3.2	3.3
	第２回	3.7	3.2	3.3	3.4	3.2	2.4	3.3	3.3	2.8	3.1	2.7	3.3	3.4
道徳教育における内容項目		礼儀	希望と勇気、克己と強い意志	社会参画、公共の精神	思いやり、感謝	希望と勇気、克己と強い意志	相互理解、寛容	思いやり、感謝	遵法精神、公徳心	公正、公平、社会正義	自主、自律、自由と責任	よりよい学校生活、集団生活の充実	真理の探究、創造	相互理解、寛容

本校における今年度の取組は、学校教育目標と育成を目指す資質・能力を踏まえて、重点的に指導する道徳教育の内容項目の把握と実践としたが、授業等における実践の場面が年度の後半からとなったため、十分な成果をあげるまでにいたらなかった。

今後は、教員が道徳教育の必要性を理解しながら、具体的な指導に生きて働く道徳教育の全体計画を作成し、教育活動を実践することが重要である。

その際は、道徳教育のための教育活動ではなく、あくまで学校教育目標に掲げている目指す生徒像の実現に向けて、学校の教育活動全体を通して、常に、計画・評価・改善・実践のサイクルで教育活動を実践することに留意する必要がある。